

そこが聞きたい!! 一般質問

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。12月定例会では、2日、3日、4日の3日間、18名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。



市民の生命を
あらゆる災害から守るために

加賀谷 勉 (公明党)

今回の主なテーマ

- ▶ 緊急時の避難勧告と情報伝達
- ▶ 防災意識高揚の取り組み
- ▶ 協働で支える交通政策の推進

◆ 災害に備え狭山市を再点検

① 緊急時の避難勧告、災害メールなど情報伝達のあり方は、どうなっているか。

② 災害時要援護者支援計画策定の状況は。

③ 命を守る取り組み、防災対策・減災対策は最優先で行うべきものと考えますが、見解は。

市民部長 ① 地域防災計画で基準を定め、注意報が発令され、河川流域の危険が予想される時、避難に関する注意報が発表され、危険と判断するときは避難準備情報を、また、警報の発表や関係機関からの通報で、避難が必要と判断する場合には、避難勧告、避難指示を出すこととなっている。情報は、防災行政無線、緊急速報メールなど、あらゆる手段で周知する。② 庁内検討会で全体計画の素案の策定が完了

し、平時の見守りや災害時の支援に協力いただける団体などにアンケートを行っている。**市長** ③ まずは自分の命は自分で守っていただき、加えて共助の精神、近所の助け合いが大きな力を発揮する。普段から地域コミュニティに参加し、自分の存在を明らかにしておくことが防災力の向上につながると感じている。



防災意識を高めることが大切



障害者福祉をみんなで
考えるやさしいまちへ

笹本 英輔 (新しき)

今回の主なテーマ

- ▶ 障害者優先調達推進法の活用
- ▶ 受発注相互のニーズを引き出す
- ▶ 市民・企業へ趣旨を拡大する

◆ 狭山市の調達方針

① 調達方針を策定するために、どのようにして物品や役務の意見聴取や情報交換をしたのか。

② 調達方針策定の目的はどのようなものか。また、そのために今後どうするか。

福祉子ども部長 ① 市内の障害者就労施設など12施設に、提供できる物品や役務について、品目や提供できる役務内容などを調査するとともに、庁内の各課には施設からの物品調達の需要状況などの調査を行った。調達可能な物品などと調達意向を確認し、各課との協議を踏まえ、調達方針を定めた。

市長 ② 調達方針は、市が積極的に障害者就労施設などから物品や役務を調達することで、

障害を持つ方の経済的基盤を少しでも押し上げ、地域生活の推進を目指すもの。今後の調達機会の拡大に向けては、需要と供給のマッチングが重要であることから、市と障害者就労施設などの情報交換の場を設けるなど、具体的な取り組みを行う必要がある。市民の皆さんや、ほかの団体などにも意識づけをしていきたい。



みんなで支え合う意識を広げよう



わかりやすくスピード感の
ある行政運営を!!

栗原 武 (新政みらい)

今回の主なテーマ

- ▶ 第4次総合振興計画策定方針
- ▶ 投資(人・物)を見極める
- ▶ スピード感が求められる

◆ 計画策定にあたり以下の考え方への見解は

① シンプルでスリムな計画であること。

② 将来に繋がる投資を見極めること。

③ 行政運営にはスピード感が必要。

総合政策部長 ① 総合振興計画は市の総合的な計画であることから、総合計画としての意義を損ねることなく、わかりやすさやシンプルであることなどにも意を用いた計画の策定に努めていく。

② 計画期間中の財政予測を基に、予算と計画の整合性を図るほか、公共施設の老朽化などに伴うランニングコストが増大する傾向にあることから、公共施設の適正な配置に向けた基本的な考え方を明確にするなど、新たな投資についての検討が必要と考えている。

③ 自治体の効率的運営には、マネジメントサイクルの計画、実行、評価、改善を的確に、かつ迅速に行っていくことが重要である。現在も行政評価システムとの連携を図っているが、第4次総合振興計画では、さらなるスピード感を持って実施することが重要と考える。



第4次に向けた
実行性のある計画を



いざという時に
市民の命と安心を守る市に

矢馳 一郎 (新しき)

今回の主なテーマ

- ▶ 市民の防災リテラシーの向上
- ▶ 緊急時の情報伝達手段の整備
- ▶ 発災時の帰宅困難者関連対策

◆ 東京都帰宅困難者対策条例施行の当市への影響

都内に通学・通勤する多くの狭山市民が都内に留め置きとなる。特に児童・生徒の保護者が帰宅できない場合も考慮し、これまで以上の想定に基づく帰宅困難者対策が必要と思われるが、市の見解は。

市民部長 26年度に予定している地域防災計画の見直しで、帰宅困難者対策を再検討する必要があると考える。同様に、昨年度から柏原地区などで実施している防災キャンプのような、学校、児童生徒、保護者が一体となった防災訓練を一層推進する必要があると考える。

◆ 避難所運営ゲーム(HUG)の防災訓練への導入

以前より、防災訓練・教育・啓発活動の一環

としてHUGの導入を要望しているが、その後の検討状況は。

市民部長 先般実施した、狭山元気大学の講座を通じ、その有効性を確認した。今後は訓練用の教材を揃え、自治会や自主防災会に広報や訓練指導、教材の貸与を行っていく。



HUGによる避難所運営訓練

ここに掲載していない一般質問の質問と答弁の概要は、ホームページでご覧いただけます。ホームページをご覧にならない方には、FAXまたは郵送でお届けします。議会事務局にご連絡ください。

04-2953-1111 内線3313